

## モデルのポイント

高品質な中晩かん等収穫期の異なる品目の導入により、取引価格の向上や収穫期の分散による規模拡大を実現する家族経営

## 技術・取組の概要

- 中晩かん(しらぬひ、愛媛県試第28号(紅まどんな)等)の収穫期の異なる新品目の導入により収穫期を分散。収穫期分散等で生じた余剰労働力及び臨時雇用の活用により、樹園地の規模を拡大
- マルチシート被覆や雨よけ栽培による栽培管理を通じて、着色促進・糖度向上・正品率向上等の品質向上を実現
- 土壌診断に基づく施肥設計の見直し等の取組によって、肥料費を低減(肥料費2割低減)
- 高品質なかんきつを生産することで差別化を図り、共同販売に加え、インターネットや直売所での販売に取組むことで、多様な販路を確保し、取引価格の向上を実現

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用6名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地	3.5ha		
・ 宮内いよかん	1.2ha	・ うんしゅうみかん	0.3ha
・ 甘平	0.6ha	・ しらぬひ(雨除け施設)	0.3ha
・ カラ	0.5ha	・ せとか	0.3ha
・ 愛媛県試第28号(紅まどんな)(施設)	0.3ha		

### 【試算結果】

粗収益	3,160万円
経営費	1,790万円
うち雇用労賃	280万円
農業所得	1,370万円
主たる従事者の所得(/人)	680万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,990hr

(参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用3名)

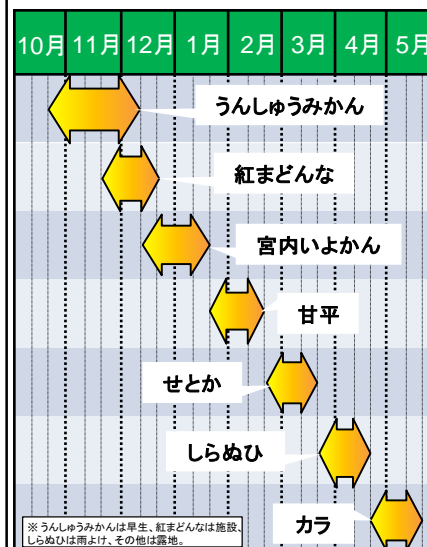
### 【経営規模・作付体系】

経営耕地	2.2ha
うんしゅうみかん	1.2ha
その他果樹	1.0ha

## 生産技術のトピックス



マルチシートの被覆



収穫期の異なる新品目の導入

モデルのポイント

新わい化栽培技術や収穫期の異なる品種の導入により単収向上や規模拡大を実現する家族経営

技術・取組の概要

- 新わい化栽培技術の導入による単収の向上、早期成園化、収穫作業等の省力化を実現(作業時間2割減)
- 従来からの早生(つがる)、晩生(ふじ)に加え、中生(シナノスイート)品種の導入や、標高の異なる園地の利用により収穫期を分散
- 省力化や収穫期の分散による労働時間の短縮や雇用労働力の導入により、樹園地の規模を拡大
- 土壌診断に基づく施肥設計の見直し等の取組によって、肥料費を低減(肥料費4割低減)
- 共同販売に加え、インターネットや直売所での販売にも取組むことで、多様な販路を確保

経営発展の姿

【経営形態】

家族経営(2名、常勤雇用1名、臨時雇用5名)

【経営規模・作付体系】

経営耕地(全て新わい化)	2.8 ha
・ 早生品種(つがる)	0.5 ha
・ 中生品種(シナノスイート)	0.8 ha
・ 晩生品種(ふじ)	1.5 ha

【試算結果】

粗収益	2,880万円
経営費	1,530万円
うち雇用労賃	510万円
農業所得	1,350万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	680万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,950hr

(参考)平均的な主業農家の姿

【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用2名)

【経営規模・作付体系】

経営耕地	1.2ha
りんご	0.8ha
その他果樹	0.4ha

生産技術のトピックス



軽トラックやSS等の農業機械の通路を確保



低樹高・コンパクトな樹体により  
高所作業を減少

モデルのポイント

樹体ジョイント仕立ての導入による早期成園化、作業の省力化・簡易化により規模拡大を実現する家族経営

技術・取組の概要

- 樹体ジョイント仕立ての導入により、慣行栽培の成園並収穫量を4年程度で達成し、収益の早期確保を実現
- 高度な技術を要する整枝作業や受粉・収穫作業の簡易化により労働時間を短縮するとともに(剪定作業時間4割減)、臨時雇用のような初心者でも作業が可能となることにより、樹園地の規模を拡大
- 土壌診断・局所施肥等の取組によって、肥料費を低減(肥料費2割低減)
- 共同販売に加え、インターネットや直売所での販売にも取組むことで、多様な販路を確保

経営発展の姿

【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用4名)

【経営規模・作付体系】

経営耕地(全てジョイント)	2.0 ha
・ 幸水	0.7 ha
・ 豊水	0.7 ha
・ あきづき	0.6 ha

【試算結果】

粗収益	2,070万円
経営費	1,100万円
うち雇用労賃	80万円
農業所得	970万円
主たる従事者の所得(/人)	490万円
主たる従事者の労働時間(/人)	2,000hr

(参考) 平均的な主業農家の姿

【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用3名)

【経営規模・作付体系】

経営耕地	1.5ha
なし	1.1ha
その他果樹	0.4ha

生産技術のトピックス



ジョイント仕立てにより、整枝・剪定等の作業効率が向上



剪定終了後の様子

## モデルのポイント

果実の生産だけでなく、観光農園、直接販売、加工品の開発・販売など多角的な経営を展開する法人経営

## 技術・取組の概要

- 果実の生産から、来園者が収穫作業を体験するぶどう狩り、直接販売、加工品の開発・販売まで、従来の生果生産の枠組みを超えた多角的な果樹園経営を展開
- 来園者ニーズに対応した多様な品種の導入とともに、構成員及び臨時雇用の労働力による作業分担を通じて規模拡大を実現
- ジュースやレーズンを使用した洋菓子の製造・販売により、周年雇用を確保
- 共同販売に加え、インターネットや直売所での生果・加工品の販売により、多様な販売形態を確保

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(3名、常勤雇用4名、臨時雇用6名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地	4.0 ha	加工品販売
・デラウェア等(施設)	0.5 ha	年間売上高
・種なし巨峰	1.1 ha	1,550万円
・種なしピオーネ	1.1 ha	
・シャインマスカット	0.7 ha	
・その他品種(県オリジナル品種等)	0.6 ha	

### 【試算結果】

粗収益	5,890万円
経営費	4,360万円
うち雇用労賃	1,940万円
農業所得	1,530万円
主たる従事者の所得(/人)	510万円
主たる従事者の労働時間(/人)	2,000hr

### (参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用4名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地	1.1ha
ぶどう	0.6ha
その他果樹	0.5ha

## 生産技術のトピックス



ジュースやレーズンを使用した洋菓子の製造・販売



複数品種を栽培することで、来園者のニーズに応える観光農園経営



## モデルのポイント

国産シェアの回復に向け、実需者ニーズを踏まえた周年安定供給や低コスト生産を実現する大規模法人経営

## 技術・取組の概要

- 小規模な家族経営が集まり、法人化・協業化することで、細かく作期をずらした生産による収穫時期の平準化、周年安定供給を実現し、実需者との契約取引を拡大することで、マレーシアや中国等の輸入品から国産シェアを回復
- 消費者ニーズを踏まえた低温庫の整備、鮮度保持剤の活用等により日持ち性を向上
- 栽培技術のマニュアル化により、雇用を活用しても均一な品質を確保するとともに、作業を効率化し、適切な管理により作付けの回転数を向上(年3回作付)
- ヒートポンプ等省エネ施設の導入、種苗法の特例を活用した耐寒性・耐暑性品種の導入等により、燃料コストを低減(耐寒性品種により燃料コストを約3割低減)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(12名、臨時雇用18名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地 3 ha  
 白輪ギク 2 ha  
 黄輪ギク 1 ha  
 (うち耐寒性・耐暑性を有する新品種1ha)

### 【試算結果】

粗収益	2億1,500万円
経営費	1億4,880万円
うち雇用労賃	1,840万円
農業所得	6,620万円
主たる従事者の所得(/人)	550万円
主たる従事者の労働時間(/人)	2,000hr

### (参考)取組前の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用3名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地 0.5ha  
 白輪ギク 0.3ha  
 黄輪ギク 0.2ha

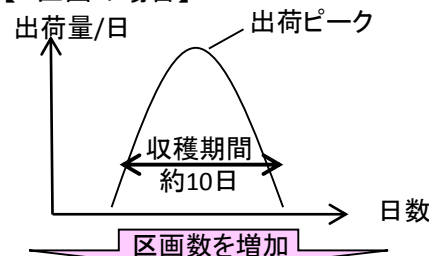
## 生産技術のトピックス

### ○周年安定出荷の取組

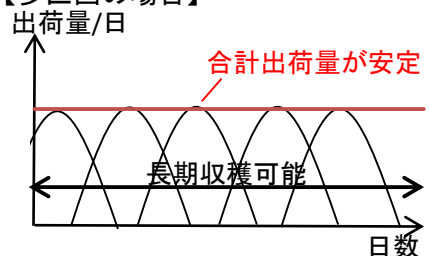


細かく作期をずらし、収穫時期の平準化、周年安定供給を実現

### 【1区画の場合】



### 【多区画の場合】



## モデルのポイント

高品質な花き生産により輸出にも取り組む家族経営

## 技術・取組の概要

- 特徴のある花・形質の花き(トルコギキョウ)を高品質に生産することで小規模でも収益性の高い経営を実現
- 日没後の加温、光照射による成長促進などの低コスト冬季計画生産技術により品質を保ちつつコストを低減(光熱費約1割減)
- 鮮度保持剤の活用等により、日持ち性を向上(日持ち期間が約3割延長)
- 種苗法の特例を活用し、輸出等にかかる長時間輸送にも耐える耐病性や日持ち性を有する品種を導入
- 産地内・産地間連携によりリレー出荷を行うこと等により、米国、ロシア等への輸出(生産量の約3割)を実現し、販路を拡大

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用3名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地	0.6 ha
うち輸出用	
・ 耐病性を有する品種	0.1 ha
・ 海外で好まれる色・形質を有する品種	0.1 ha

### 【試算結果】

粗収益	3,400万円
経営費	1,210万円
うち雇用労賃	360万円
農業所得	2,190万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	1,090万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,850hr

(参考)取組前の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用1名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地 0.3ha

## 生産技術のトピックス



○高品質なトルコギキョウを産地間連携により輸出

日没後3時間加温・光照射したものは他と比べ成長が促進



○低コスト冬季計画生産技術

## モデルのポイント

高品質な鉢物の効率的な大量生産を実現する大規模法人経営

## 技術・取組の概要

- 施設の大規模化により生産を効率化し、ICTによる複合環境制御システムにより、常に最適な光・温度環境を実現することで、高品質な洋ランを大量生産
- 苗生産、育苗を海外に委託し、育苗コストを低減(約2割)するとともに、施設の回転率を向上させ収益性を向上
- 結婚式・贈答用などに向けた高付加価値なオリジナル商品を開発するほか、インターネットを通じたプロモーションなどにより消費を拡大
- 旧正月の時期を中心に香港等中華圏に輸出し販路を拡大、ミズゴケの活用等により輸出検疫にも対応、輸出実績については国内プロモーションでもPR

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(5名、常勤雇用7名、臨時雇用30名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地 1ha

### 【試算結果】

粗収益	3億7,100万円
経営費	3億2,230万円
うち雇用労賃	5,420万円
農業所得	4,870万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	970万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,920hr

### (参考)取組前の姿

#### 【経営形態】

法人経営(3名、常勤雇用3名、臨時雇用5名)

#### 【経営規模・作付体系】

経営耕地 0.5 ha

## 生産技術のトピックス



○ICTを活用し大規模化したハウスの光・温度を適正管理



○生産段階からミズゴケを活用し、輸出検疫に対応

## モデルのポイント

放牧によりゆとりを確保しつつ、アイスクリーム等の製造・直販により、販売額の増加を図る家族経営

## 技術・取組の概要

- 乳量を維持(経産牛1頭当たり8,100kg/年程度)しつつ、生産性の高い草地への集約放牧(春夏・昼夜)により、飼料費の低減と省力化を実現
- 搾乳ユニット自動搬送装置の導入により、つなぎ飼いにおける搾乳作業を省力化するとともに、酪農ヘルパーを活用し、家族労働時間を軽減
- 自ら生産した生乳によりアイスクリーム等を製造して付加価値を向上し、インターネットや直売所による販売を行う6次産業化を展開  
(経産牛1頭当たりの飼料費:約2割低減、経産牛1頭当たりの飼養管理時間:約3割低減)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

酪農部門:家族1名、常勤雇用1名+酪農ヘルパー  
6次産業化部門:家族1名、常勤雇用1名、臨時雇用1名

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
経産牛 66 頭  
経営耕地  
飼料作物 55ha(うち放牧利用34ha)

### 【6次産業化部門の取組規模】

(アイスクリーム7t)

### 【試算結果】

	酪農部門	6次産業化部門
粗収益	4,940万円	1,900万円
経営費	4,170万円	1,560万円
うち雇用労賃	310万円	400万円
農業所得	770万円	340万円
主たる従事者の所得(/人)	770万円	340万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,900hr	1,900hr

(参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(3名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
経産牛 66 頭  
経営耕地  
飼料作物 55 ha

## 生産技術のトピックス



○放牧により、飼料費の低減と省力化



○搾乳ユニット自動搬送装置の導入により、搾乳作業を省力化



○アイスクリーム等の製造・直販により販売額を増加



## モデルのポイント

飼料生産・調製や飼養管理の分業化・機械化等による省力化・効率化を通じ、規模拡大を図る大規模法人経営

## 技術・取組の概要

- フリーストール、ロータリーパーラー、自動給餌機等の機械を導入し、省力化するとともに、規模を拡大
- 飼料生産・調製部門、搾乳部門、哺育部門、ふん尿等処理部門等への分業化により、作業を効率化
- 青刈りとうもろこし等高栄養飼料作物をホールクロップサイレージ、イアコンサイレージに調製・利用すること等により、飼料の安定確保・コスト低減を実現

(経産牛1頭当たりの飼養管理時間:約3割低減、経産牛1頭当たりの飼料費:約1割低減、飼料自給率:70%)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(8名、常勤雇用7名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
経産牛 500頭  
経営耕地  
飼料作物 218ha

### 【試算結果】

粗収益	4億1,930万円
経営費	3億6,260万円
うち雇用労賃	2,060万円
農業所得	5,670万円
主たる従事者の所得(/人)	710万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,900hr

### (参考)平均的な法人経営の姿

#### 【経営形態】

法人経営(4名、常勤雇用4名、臨時雇用5名)

#### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
経産牛 294 頭  
経営耕地  
飼料作物 167 ha

## 生産技術のトピックス



○ロータリーパーラー等の導入により、省力化・効率化



○飼料生産・調製部門等の分業化により、作業を効率化



○青刈りとうもろこし等高栄養飼料作物の利用により、飼料の安定確保

## モデルのポイント

搾乳ロボットやTMRセンターの活用等により省力化しつつ規模拡大を図るとともに、耕畜連携により飼料の安定確保等を図る家族経営

## 技術・取組の概要

- 搾乳ロボットの導入(一部、アブレストパーラーで搾乳)等の機械化により、搾乳作業を省力化するとともに、生産性を向上
- TMRセンターの活用により、自給飼料生産・調製作業を外部化して省力化を図るとともに、飼料の安定確保を実現
- 飼料用米や稲WCS等水田飼料作物の利用拡大により飼料の安定確保を図るとともに、耕種農家へ堆肥を供給し、地域内での資源循環により持続性を確保

(経産牛1頭当たり乳量:9,000kg/年、経産牛1頭当たりの飼養管理時間:約5割低減、飼料自給率:60%)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、常勤雇用1名)+TMRセンター

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
 経産牛 100頭  
 経営耕地  
 飼料作物 8ha

### 【試算結果】

粗収益	9,460万円
経営費	8,120万円
うち雇用労賃	300万円
農業所得	1,350万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	670万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,800hr

(参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用1名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
 経産牛 38頭  
 経営耕地  
 飼料作物 8ha

## 生産技術のトピックス



○搾乳ロボット等機械導入により、省力化、生産性の向上



○TMRセンターの活用により、自給飼料生産・調製作業を省力化



○飼料用米、稲WCS等水田飼料作物の利用により、飼料の安定確保

## モデルのポイント

荒廃農地等での放牧やキャトル・ブリーディング・ステーションの活用を通じ、省力化と牛舎の有効利用により規模拡大を図る家族経営

## 技術・取組の概要

- 妊娠牛を、簡易な電気牧柵を活用して荒廃農地等へ放牧することにより、飼料費の低減と省力化を実現
- キャトル・ブリーディング・ステーションへ預託することにより省力化を図り、空いた牛舎を活用して規模を拡大するとともに、繁殖効率を改善して生産性を向上

(子牛1頭当たりの飼料費:約5割低減、子牛1頭当たりの飼養管理時間:約5割低減、繁殖雌牛の分娩間隔:12ヵ月)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

繁殖雌牛 80頭(肉専用種)

経営耕地

飼料作物 30ha (うち放牧利用25ha)

### 【試算結果】

粗収益	3,310万円
経営費	2,260万円
うち雇用労賃	0万円
農業所得	1,050万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	540万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,800hr

(参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

繁殖雌牛 24頭(肉専用種)

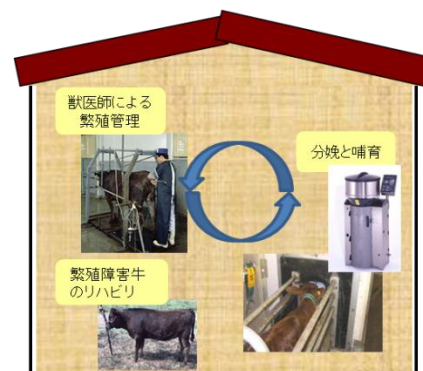
経営耕地

飼料作物 5ha

## 生産技術のピックアップ



○妊娠牛の荒廃農地等への放牧により、飼料費の低減と省力化



○キャトル・ブリーディング・ステーションの活用により、省力化、生産性の向上

## モデルのポイント

分娩監視装置や哺乳ロボットの導入、コントラクターの活用等により、分娩間隔の短縮や省力化等を図る大規模法人経営

## 技術・取組の概要

- 発情発見装置や分娩監視装置等の新技術を活用した繁殖管理により、省力化するとともに、発情の見落としや分娩事故の発生を防止しつつ、規模を拡大
- 哺乳ロボットの導入により子牛生育の斉一化を図るとともに、子牛の早期離乳により繁殖雌牛の分娩間隔を短縮
- コントラクターの活用により飼料生産を外部化して省力化を図るとともに、国産飼料の利用により飼料の安定確保・コスト低減を実現

(子牛1頭当たりの飼養管理時間:約5割低減、繁殖雌牛の分娩間隔:12ヵ月、子牛1頭当たりの飼料費:約3割低減)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(3名、常勤雇用2名)+コントラクター

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

繁殖雌牛 200頭

経営耕地

飼料作物 16ha

### 【試算結果】

粗収益	8,270万円
経営費	5,740万円
うち雇用労賃	590万円
農業所得	2,540万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	850万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,800hr

(参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

繁殖雌牛 24頭(肉専用種)

経営耕地

飼料作物 5ha

## 生産技術のトピックス



分娩監視装置の例

歩数計を活用した  
発情発見装置の例

○発情発見装置等の活用により、大規模でも繁殖性を維持



○コントラクターの活用により省力化しつつ、国産飼料の生産・利用を拡大



## モデルのポイント

飼料用米等国産飼料の活用や増体能力に優れたもと畜の導入、飼養環境の向上等により、生産性の向上や規模拡大を図る、肉専用種肥育の家族経営

## 技術・取組の概要

- 飼養効率や飼養環境の向上を図った施設の整備を実施するとともに、飼料生産の外部化や自動給餌機の活用等省力的な飼養管理の導入により、規模を拡大
- 増体能力の優れたもと畜の導入やストレスの少ない飼養環境の確保(肥育段階等に応じた精密な栄養管理、適切な飼養密度の確保等)により、枝肉重量の増大や肉質を向上
- 飼料用米や稲WCS等、地域内の国産飼料を活用して飼料自給率を向上することにより、飼料の安定確保を図るとともに、地域ぐるみでブランド化の取組を推進

(肥育牛1頭当たりの飼養管理時間:約2割低減、枝肉重量:480kg/頭、飼料自給率:20%)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、臨時雇用1名)+コントラクター

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

肥育牛 200頭(肉専用種)

経営耕地

飼料作物 7ha

### 【試算結果】

粗収益	1億2,660万円
経営費	1億1,620万円
うち雇用労賃	20万円
農業所得	1,040万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	520万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,800hr

(参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

肥育牛 95頭(肉専用種)

経営耕地

飼料作物 4ha

## 生産技術のトピックス



○増体能力の優れたもと畜導入や快適な飼養環境の確保により、生産性を向上



飼料用米

稲WCS

○地域内資源の活用により、自給率の向上、ブランド化の推進

## モデルのポイント

エコフィード等国産飼料の活用や肥育牛の出荷月齢の早期化、繁殖・肥育一貫化によりコスト低減を図る、肉専用種繁殖・肥育一貫の大規模法人経営

## 技術・取組の概要

- 繁殖部門から肥育部門を一貫して行うことにより、肉専用種肥育経営におけるコストの5～6割を占めるもと畜価格を低減するとともに、変動リスクを軽減
- 繁殖管理での発情発見装置、分娩監視装置の活用、子牛への哺乳ロボットの活用による省力化・効率化
- 肥育牛へのエコフィード・配合飼料・粗飼料のTMR給与や肥育牛の出荷月齢の早期化により、飼料費等生産コストを低減
- 飼料や飼養管理へのこだわりを活かした消費者に訴求力のあるブランド化を図り、市場出荷に加え、直販等により販売力を強化

(肥育牛1頭当たりの飼料費:約3割低減、肥育牛の出荷月齢:25ヵ月)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(4名、常勤雇用4名、臨時雇用4名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

繁殖雌牛 300頭(肉専用種)

育成牛 200頭(肉専用種)、肥育牛 500頭(肉専用種)

経営耕地

飼料作物 44ha

### 【試算結果】

粗収益	2億9,090万円
経営費	2億4,120万円
うち雇用労賃	1,580万円
農業所得	4,970万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	1,240万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,800hr

(参考)平均的な主業農家の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

肥育牛 95頭(肉専用種)

経営耕地

飼料作物 4ha

## 生産技術のトピックス



豆腐粕(おから)

○エコフィード等国産飼料の利用により、飼料費を低減



○消費者に訴求力のあるブランド化により、販売力を強化

## モデルのポイント

肥育牛の出荷月齢の早期化による飼料費等の低減や牛肉の地域ブランド化等により収益性の向上を図る、交雑種・乳用種の育成・肥育一貫の大規模法人経営

## 技術・取組の概要

- 酪農経営により生じる乳用種雄資源を有効活用するとともに、交雑種を導入し多角化を図りながら規模を拡大することにより、収益性を向上
- 肥育前期に、コントラクターを活用して生産したとうもろこしサイレージ等の国産飼料を利用しつつ、肥育開始月齢の早期化や肥育期間の短縮により、出荷月齢を早期化し、飼料費等生産コストを低減
- 赤身肉に対する消費者の関心に対応した特色のある牛肉を生産、地域ブランド化を図り、生産者の顔が見える牛肉として販売

(肥育牛の出荷月齢: (交雑種)23ヵ月、(乳用種)19ヵ月、  
肥育牛1頭当たりの飼料費: (交雑種)約2割低減、(乳用種)約1割低減)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(4名、常勤雇用2名、臨時雇用1名)+コントラクター

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

肥育牛(交雑種600頭、乳用種400頭)

育成牛(交雑種250頭、乳用種180頭)

経営耕地

飼料作物 76ha

### 【試算結果】

粗収益 4億1,400万円

経営費 3億8,150万円

うち雇用労賃 640万円

農業所得 3,250万円

主たる従事者の所得(/人) 810万円

主たる従事者の労働時間(/人) 1,800hr

(参考)平均的な法人経営の姿

### 【経営形態】

法人経営(2名、常勤雇用1名、  
臨時雇用2名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数

肥育牛 400頭(乳用種)

育成牛 167頭(乳用種)

経営耕地

飼料作物 20ha

## 生産技術のトピックス



乳用種



交雑種

○乳用種肥育から交雑種肥育へ多角化するとともに、規模を拡大



○特色ある牛肉生産やブランド化により、販売力を強化

## モデルのポイント

飼料用米等国産飼料の活用により飼料の安定確保・コスト低減を図るとともに、飼養管理等の徹底により生産性の向上を図る繁殖・肥育一貫の大規模法人経営

## 技術・取組の概要

- 輸入穀物を主体とした配合飼料から、飼料用米、エコフィード(リキッドフィード)といった国産飼料に転換(国産飼料割合を約7割、うちエコフィードを飼料全体の4割使用)し、飼料の安定確保・コスト低減を実現
- オールイン・オールアウト方式の徹底、ツーサイトからスリーサイト方式への変更、HACCP手法の導入といった飼養・衛生管理の徹底により、育成率等の向上を図るとともに、購入精液を使用して100%人工授精することにより、疾病コントロールや夏場の自然交配による受胎率の低下防止を図り、出荷頭数を増加(1母豚当たりの年間出荷頭数:23頭→26頭)
- オートソーティングシステムの導入等により労働生産性を向上し、規模を拡大

(肥育豚1頭当たりの飼料費:約3割低減、母豚1当たりの肥育豚年間出荷頭数:26頭、  
労働者1人当たりの飼養母豚頭数:約3割増加、労働者1人当たりの肥育豚出荷頭数:約5割増加)

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

法人経営(2名、常勤雇用13名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
繁殖母豚1,000頭  
(肥育豚年間出荷頭数26,000頭)

### 【試算結果】

粗収益	8億5,170万円
経営費	8億1,900万円
うち雇用労賃	7,020万円
農業所得	3,270万円
<hr/>	
主たる従事者の所得(/人)	1,630万円
主たる従事者の労働時間(/人)	1,800hr

(参考)平均的な法人経営の姿

### 【経営形態】

法人経営(2名、常勤雇用13名)

### 【経営規模・作付体系】

飼養頭数  
繁殖母豚760頭  
(肥育豚年間出荷頭数17,270頭)

## 生産技術のトピックス



○飼料用米、エコフィード等の活用により、飼料の安定確保等



○飼養・衛生管理の徹底により、生産性を向上



○オートソーティングシステムの導入等により、労働生産性を向上



## モデルのポイント

有機JAS認証を取得し実需者と直接契約を行うとともに、ニーズの高い品目を核とした効率的な輪作を行う家族経営

## 技術・取組の概要

- 有機JAS認証を取得した生産者等が連携し、安定供給、販売ロット拡大、広域流通等を行うことで、実需者との直接契約を拡大
- 実需者ニーズのある品目を核とした輪作体系により、生産の効率化、ロット拡大による安定供給を実現
- 施設栽培の導入等により、労働ピークを分散するとともに、周年的な雇用機会を創出
- 次代の担い手育成のため、新規就農希望者を雇用し、技術と経営の習得を支援
- 太陽熱土壤消毒技術等の導入、センチュウへの対抗植物(緑肥)等の導入による防除作業等の省力化

## 経営発展の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名、常勤雇用1名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地	3ha	
露地野菜		施設野菜
・にんじん 1.16ha	・その他 1.16ha	・レタス等 0.30ha
・さといも 0.58ha	(冬瓜、なす等)	
・だいこん 0.58ha		緑肥作物 1.16ha

### 【試算結果】

粗収益	2,680万円
経営費	1,370万円
うち雇用労賃	320万円
農業所得	1,310万円
主たる従事者の所得(/人)	650万円
主たる従事者の労働時間(/人)	2,000hr

### (参考)取組前の姿

### 【経営形態】

家族経営(2名)

### 【経営規模・作付体系】

経営耕地	1.3ha
・にんじん	0.26ha
・さといも	0.13ha
・だいこん	0.26ha
・葉物野菜 (レタス等)	0.39ha
・ブロッコリー	0.26ha
・なす	0.13ha
・冬瓜	0.13ha
・こかぶ	0.13ha

## 生産技術のトピックス



○太陽熱土壤消毒技術の導入



○センチュウへの対抗植物(緑肥)の導入



# 地域戦略の例示

---

地域戦略	①畜産クラスターによる収益性の向上
基本的な戦略	地域の畜産農家が、外部支援組織や食品関連産業と連携し、地域全体で収益性の向上を実現
取組の概要	<div> <div> <h3>1 新たな繁殖技術の活用による酪農家と肉用牛農家の経営発展</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>性判別精液により、効率的に優良後継牛を確保するとともに、受精卵移植技術を活用した和子牛生産を通じ、副産物収入の増加により、収益性を向上</li> <li>肉用牛肥育農家が、地域の酪農家が生産した和子牛を活用して、育成から肥育までの一貫した経営を行うことにより、収益性を向上</li> </ul> </div> <div> <h3>2 TMRセンターによる酪農家の経営発展支援</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>酪農家が、新たに整備したTMRセンターを活用することにより、 ①飼料の生産・調製作業を省力化し、規模拡大するとともに、 ②飼養管理作業への集中、高品質なTMRの給与により、 1頭当たり乳量を向上させ、生乳出荷量及び収入を増加</li> <li>併せて、センター運営に係る雇用を創出</li> </ul> </div> <div> <h3>3 他産業と連携した畜産物の付加価値向上</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>道の駅内にジェラート工房・販売店を新設し、地域の酪農家が生産した生乳を加工し、付加価値を向上させて販売</li> <li>また、道の駅内のレストラン等において、地域の肉用牛農家が生産した肥育牛の牛肉や加工品を販売</li> <li>このことにより、収入の増加や雇用の創出、観光客の増加等に寄与</li> </ul> </div> </div>
地域取組の姿	<div> <p>想定地域例：酪農家と肉用牛農家が存在する畜産地域の市町村（関係農家：畜産25戸）</p> <div> <div> <h4>取組前</h4> <p>＜経営規模＞ 酪農家 20戸 773頭 肉用牛肥育農家 5戸 540頭 雇用 8人</p> <div> <div> <b>酪農家</b> ・個々に自給飼料生産 【農業所得】1.8億円① </div> <div> <b>肉用牛肥育農家</b> ・肥育もと牛は地域外から導入 【農業所得】0.18億円② </div> </div> </div> <div> <h4>取組後</h4> <div> <div> <b>酪農家</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TMRの活用により、省力化及び生乳生産量の増加</li> <li>・性判別精液と和牛受精卵移植により、効率的な乳用後継牛の確保及び和子牛の生産・販売</li> </ul> <p>（搾乳牛 960頭） 【農業所得】2.9億円③ 【雇用】8人</p> <p>和子牛の供給 414頭</p> </div> <div> <b>TMRセンター</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自給飼料生産を拡大するとともに、TMRを地域の酪農家へ供給</li> </ul> <p>【関連所得】790万円⑤ 【雇用】3人</p> </div> </div> <div> <div> <b>肉用牛育成・肥育農家</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の酪農家から、和子牛を導入し、育成・肥育一貫経営により効率的に肉用牛を生産</li> </ul> <p>（和牛出荷 540頭） 【農業所得】0.33億円④ 【雇用】2人</p> <p>和子牛の導入</p> </div> <div> <b>食品関連産業</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅におけるジェラート等の畜産加工品の製造・販売</li> </ul> <p>【関連所得】0.36億円⑥ 【雇用】2人</p> </div> </div> </div> </div> </div>
地域関連所得の試算結果	<p>農業所得＋関連所得 1.9億円（①＋②） → 3.7億円（1.8億円増）（③＋④＋⑤＋⑥）</p> <p>雇用 7人増</p>

36